

徳島県立農林水産総合技術支援センター
令和3年度 第1回外部評価委員会 議事録

日時：令和3年11月10日（水）
場所：徳島県庁 11F 特別講堂

1 普及指導活動の評価

○阿南農業支援センター

<意見・質疑応答>

●移住就農の取り組みについて（意見）

委員：移住就農の事例として紹介された澤田さんを直接取材したことがあるが、移住就農にあたって先輩農家からの技術指導や、農地の確保など移住就農に手厚いサポートがあるのだとわかった。それでも「もうかる農業」実現のためにはさらに面積を拡大したいという話もあった。移住就農者はわからないことも多く、周囲のサポートが非常に重要だと思う。移住就農の推進は非常によい取り組みだと思うので、今後も支援を頑張ってもらいたい。

●IPMによる生産振興、防除への取り組みについて（質疑）

委員：タバコカスミカメによるアザミウマの防除効果は、どれほどの期間有効に持続するのか。

回答：具体的な数字はわからないが、年間を通してタバコカスミカメを確保できるようにし、次作においても活用するようにしていく。

○美波農業支援センター

<意見・質疑応答>

●担い手の育成について（質疑）

委員：美波の「トレーニングファーム」と阿南の「親方制度」には類似点もあるが、センター間で連携して課題解決への方法を模索したりしてはいるのか。

回答：美波と阿南は地域的にも近く、南部県民局管内ということで、情報共有もしており、よい方法については情報交換を通じて取り組んだりもしている。「親方制度」は就農にあたって、親元就農や篤農家の下へ入ったりするものである。

「トレーニングファーム」はJA生産者部会を通じて紹介してもらおうという形をとっており、佐賀県の取り組みを参考にしている。

●担い手の確保について（質疑）

委員：阿南は就農者誘致への取り組みに関して発表があったが、美波は何か新規就農の呼び込みは行っているのか。

回答：「きゅうりタウン構想」の重点施策の一つとして、移住就農への取り組みを行っている。人口減少もあり県内での担い手確保が困難なことから、県外に着目した。首都圏・関西圏での移住就農イベントにも参加している。

2 教育研修業務の評価

<意見・質疑応答>

●農家での就業体験について（質疑・意見）

委員：学生が実際に体験した農家へ就職するといったようなことはあるのか。

回答：農業法人の場合などの事例があるが少ない。

委員：教育の一環なので体験学習を主目的としているのだろうが、担い手不足の地域へ赴いて興味を持ってもらうということも大事なのではないかと感じた。

●スマート農業学習について（質疑）

委員：スマート農業は個人だけでなくグループ・地域で進めていく必要があると思うが、個人スキルだけでなくそういった営農的な観点からの教育の取り組みは行っているのか。

回答：スマート農業の知識があることで、農業法人に就職したときにドローン操作ができれば役立つであろうし、さまざまなアイデアが浮かび上がるようなことを期待して学習させているところである。まずは、スマート農業に対して前向きな姿勢を身につけさせるという段階である。

●入学者数について（質疑）

委員：昨年度より入学者数が増えたのはどんな理由が考えられるのか。

回答：コロナで県外に出るより地元志向が強まったからではないかと考えられる。